

導入場面

「鳥のひながお母さんにえさをもらおうと口を開けています。口の開きぐあいを比べてみましょう。」

子どもの活動

- ・切って重ねる
- ・くちばしの中の長さで比べる
- ・アイテム角度（任意単位の一例）
- ・三角定規の角度をつかって

支援したこと

間の長さで比べられる場合（角をつくる2辺の長さが等しい）と比べられない場合があることを提示し、角の大きさに目が向くようにした。

任意単位による測定の考え方が出やすいように、アイテムを与えた

発展場面

「三角定規を使って、いろいろな大きさの角を作ろう」

子どもの活動

- ・並べてできる角
- ・並べた角の外側の角
- ・重なった部分を除いた角
- ・1辺を 180° としてそれに角を付け加えた角

支援したこと

たくさんの角を発見させるため、同じ大きさの角を重ねた児童が、「 0° 」としたことも認めた。

討議内容

角は、回転角として指導すべきではないか、図形を作るというのではなく、辺が頂点を中心に動く（回転）して角をつくるという指導が必要ではないのか。

具体物の操作を通して、概念をつくる取り組みであった。アイテムの角度は、任意単位から普遍

単位へのつながりを果たす、大切な教具ではなかろうか。○の幾つ分という見方は、既習の長さ・重さの学習との共通点になっているので。

角は、自然に単位が決まった単位。初めに一回転があり、それを半分にし、○等分して云々と、 360° をもとにして角度は生れた。メートル法が定められたころは、直角= 100° なんてされていた時代もあった。

子どもは、角のイメージを誤認している。角の合成を単なる数値の合計とみるのではなく、角と辺と角の合計であるということをおさえておくべきである。

辺の長さで角の大小をとらえる子どもが多いということは、辺長と角の分離した指導が大切。「ひらきぐあい」ということをきちんと認識させていかなければならない。